



※特別整理期間のため10/8(火)~13(日)はやよい図書館はお休みです※

いつもやよい図書館をご利用いただきましてありがとうございます。

本格的な秋を迎えました。空は高く気持ちのよい風を感じます。旅行やスポーツ、芸術鑑賞、食べ歩き…何を選んでも最高の季節ですね。読書の秋！と言いたいところではありますが、それぞれの趣味のための本もたくさんありますので参考にいただき、ぜひ思い思いに秋を楽しみましょう。

やよい図書館では今月もいろいろな企画で皆さまをお待ちしています。児童コーナーではNPO法人「絵本で子育て」センターの絵本講師、のぐちりえさんによる「絵本講師の本棚」が始まります。子育てを助けてくれるだけでなく、より豊かに彩ってくれる絵本をご紹介します。ぜひご覧ください。

俺の一冊・私の一冊

中央本町地域学習センター・やよい図書館で働くスタッフが、それぞれ自信を持っておすすめする1冊をご紹介します。みなさん、ぜひ読んでみてください！！

館長の一冊

『小山薫堂幸せの仕事術』 小山薫堂/著 NHK出版



作者は、『おくりびと』の脚本を手がけ、あの「くまモン」を世に送り出した小山薫堂さんです。放送作家であり、現在は大学教授も務め、作詞や作家、企業の顧問や地域アドバイザーなどとして幅広く活躍をされています。多忙な中、次々と新しい企画を立ち上げられるのはなぜでしょうか。時代を動かしてきたヒット作の誕生を紹介しながら、そのアイデアの源泉をも惜しげなく披露してくれています。その源泉とは…ぜひ読んで確認してください。毎日楽しく送るためのヒントが満載です。ビジネスにも人生にも効く1冊。オススメです！

俺の一冊(粟飯原)

『この方法で生きのびろ』 ジョシュア・ペイビン/著 草思社



本を開くといきなり「流砂に足を取られた時」という項目。砂漠で遭難しそうな時やクーガーに襲われそうな時など、現代の日本で生きる限りまず必要ないであろう生死を分けるサバイバル術が満載。いたって真面目な内容なのだが、平和な場所でしか暮したことのない自分にはどこか非現実的な面白さを感じた。しかし残念なことに和訳がいまいちなため、本当に危険に遭遇する可能性のある方には原文版をおすすめしたい。

私の一冊(飯塚)

『ブーリン家の姉妹』 フィリッパ・グレゴリー/著 集英社



16世紀の英国王ヘンリー8世は妃を6人も娶り、その内2人を断頭台に送るという自己中心的な人物でした。女性が出世の道具でしかなかった時代にブーリン家のアンは王の妃になるという夢を実現させるために自らの意志で動きます。本を読んでいく内にアンの力強さに圧倒されます。アンは、後のエリザベス王朝という黄金時代を築く王女を出産するわけですが、まさに「この親にしてこの子あり」と言う言葉がぴったりの母娘だと感じます。英国王家の歴史には同じ名前の人物が多いですが、そのややこしさと格闘しながら読んでいくのも楽しいですよ。

読書の窓 HALLOWEEN



10月31日はハロウィン！ 11月1日の万聖節（キリスト教の全ての聖人を礼拝する日）の前日である10月31日は幽霊や精霊、魔女など超自然的な存在が最も強くなると考えられていました。そうしたことから身を守るために、人々は仮面をつけ仮装したといわれています。今では子どもたちが仮装して『Trick or Treat（お菓子をくれなきゃ、いたずらするぞ）』の言葉でお菓子をもらうことでも有名ですね。今回はハロウィンに読みたくなる一冊を紹介していきます。



『恐怖のハロウィーン』

アイザック・アシモフ/編 徳間書店
ハロウィンの楽しさだけでなく、不気味な雰囲気を持つ作品を収めた短編集。死に際の男がつぶやいた「ハロウィン」とは？ 転校してきた少女の語るかぼちゃ頭って誰？ 失踪した男が送ってきた手紙の中身とは？ 不思議な話からミステリーまで、今年はちょっと変わったハロウィンをお楽しみください。

『怖くて不思議なスコットランド妖精物語』

出口保夫/監修 PHP研究所

空想や幻想を好み、想像力が豊かなケルト民族。その中でもスコットランドにはさまざまな種類の妖精がいるようです。例えば人に害を与えるもの、親切なものなど…。ちょっぴり怖くて不思議な妖精に出会える一冊です。少し不気味な挿し絵にも注目してみてください。

『大食いフィニギンのホネのスープ』

カンブリア・エバンズ/作 BL出版
大食いのフィニギンはハロウィンの日、ごちそうがたくさん食べられると思い、ある町に立ち寄ります。しかし町の怪物たちはごちそうを全部食べられては大変と食べ物を隠してしまいます。フィニギンはどうやってごちそうを手に入れるのでしょうか？ 怪物たちの不気味なごちそうも見どころの一つです。

『記念日の本』

日本ヴォーグ社

新年、バレンタインデー、ハロウィン、クリスマスなどさまざまな記念日があります。アメリカでは大きな記念日、小さな記念日に関わらず一つの記念日を大切にお祝いし、大切にしている気持ちをカードで伝えます。この本を読みながら大切な人を思い浮かべ、記念日を振り返ってみてはいかがでしょうか。

『塵よりよみがえり』

レイ・ブラッドベリ/著 河出書房新社
この<一族>シリーズを萩尾望都による漫画でご存知の方もいると思います。魔力を持ち、長い時を生きる一族の中でひとり、人間であるティモシーと彼をとりまく一族の物語。「いちばんすくなく生きるもの」として、ティモシーは一族とどう生きていくのか。秋のはじめに、少し切ないお話をどうぞ。

☆読書の小窓☆

「桜姫東文章」という歌舞伎は、江戸時代に四代目の鶴屋南北によって作られました。実際にあった事件を基にして書かれた話とされていますが、恋愛、仇討、悪だくみに幽霊話と、様々な要素が詰め込まれた一大エンターテイメントになっています。特に、役者さんが演じる情事は見応え抜群です。歌舞伎初心者にもおすすめの演目です。(丸山)